

## JNDC ニュース 致脱み色々雑感

五十嵐信一(原研)

JNDC ニュースも30号を越すと私の書棚の中でも一寸目立った存在になってくる。先日編集者から巻頭言を書いてくれと言われて、引受けるともなく、既刊の巻頭言などを見ていたら何となく色々な事が思い出されて、今回に限って引受けて見る気になった次第である。本来巻頭言は私ごときが書くべき所ではないので、これまでも何回か辞退して来たのであるが、30号を越す中にはこのような駄文が入っていても、小休止と言う意味もあって、お許し願いたいと思う。

御存知のように、JNDC ニュースの№27から表紙が空色に変わって、それまでの橙色とは大分趣が違って来た。多分橙色は前編集者中嶋龍三氏の好みであり、空色は現編集者更田豊治郎氏の愛用する色であろう。ところでこのお二人、阪大大学院では同級生の仲であり、奇しくもJNDC ニュースの編集を共におやりになった訳である。この事自体はあまり意味がないが、ニュースの№1から№6までと№27以後の表紙の体裁が非常に良く似ていることに気付いた時は何かしらお二人のJNDC ニュースに対する共通した意気込みみたいなものを感じたのであるが、もう一つ共通した所として、巻頭言と言ひ見出しなしに巻頭言を書かしているのには、さすが御両所と叫びたくなった。中には御自分で「巻頭言」と言ひ題をつけられている方もあったが、大抵は巻頭にふさわしい別の題をつけておられるようであった。

実は編集者を祖上に乗せるつもりはなく、JNDC ニュースだけを取り上げて見ても、見る人によりその感じ方、価値判断はさまざまであろうと言ひ事を言ひたいのである。恐らく、上に述べたようにならぬ事に、読者諸賢は気をわずらわすことはないと思うが、編集をする側、もっと広く言えばサービスをする側はそのような点を含めて、その気のつかいよりは、例えば表紙の色からその体裁から、実に、はた目にも気の毒な位気をつけているのである。この気の毒さからの解放は読者諸賢の叱咤激励以外にない事とは思ひが、それにしても30号を越す刊行は見事と言ひ外に言葉がない。ここで忘れてならないのは、編集者を助け、原稿の校正を始めとして細々した雑事を処理してくれている人の存在である。JNDC ニュース刊行当時は田中姉子女史がこの役を受持ち、現在では石原待子嬢がこの役目を担当している。30号を越す刊行の陰に、このお二人の努力があったことを夢にも忘れてはならないと思うのである。

核データ分野の仕事は今後ますます拡大発展するであろうが、それを円滑に、しかも強力で運ぶためには、JNDC ニュースのような情報伝達誌の上手な活用がますます必要になって来るであろう。それだけに編集者、補助者のたゆまぬ努力を期待すると共に、読者の積極的参加による編集なども考えては如何かと思ひ。